

グリーンマシーン 11/23 明大と激突 プレーオフに3年連続出場



アメフトリーグ戦、開幕2連勝を飾ったグリーンマシーン。後半戦も勢いは止まらない。

10月13日、川崎球場での慶大戦。先制点を奪うが、ミスからTD(タッチダウン)され、10-7。後半は、OF・DFともに調子を上げ、後藤亨輔(商2・足立学園高)のロングゲインのTDなど積極的な攻撃で相手を突き放す。宮崎祥史(法3・花咲徳栄高)も2度のインターセプトを決め、45-7と快勝した。

10月20日、大井第2球場での早大戦は見事な逆転劇となった。序盤に21点を奪われ、第3Q終了時には、10-30と大差をつけられる。しかし、第4Q、ついに反撃開始。連続してTDを決め、24-30と追い上げる。そして終了1分前、小島淳寛(商4・埼玉栄高)が自慢の足で、同点のTD。パットも決め逆転。その後DF陣がリードを守りきり、31-30で、接戦をものにした。

続く10月27日、西武ドームでの東海大戦。前半は一進一退の攻防が続く、10-13で折り返す。後半は、甲斐正次郎(経営4・大阪学芸高)のインターセプトから流れをつかみTD、16-13とリードを奪う。その後両者とも追加点を挙げ、26-20で試合終了。昨年の雪辱を果たした。

11月9日、対日体大戦にも51-29で勝利し、Bブロック1位となった。

この勝利で3年連続となるクラッシュボウル(プレーオフ)出場権を獲得し、専大は、11月23日、13時30分から駒沢陸上競技場で明大と対戦する。勝者は、12月1日、14時から埼玉スーパーアリーナで行われる決勝戦に臨む。(写真・33番=小島敦寛のTD=対早大戦/撮影・奥原佑城)

(稲田 礼子・法1)
〔11月15日/ニュース専修16面〕

箱根駅伝出場決める 2年連続、通算60回目



第79回箱根駅伝(東京箱根間往復大学駅伝競走)予選会が10月19日、東京・立川市の昭和記念公園で行われ、専大は10時間25分19秒で10位となり、2年連続60回目の本大会出場を決めた。

予選会当日は湿度が高くなり、選手達は調子が上がらず苦しんだが、5キロ地点から10キロ地点で確実に順位を上げ、エース・行友誠(商3・宇部鴻城高)の13位を筆頭に次々とゴール、ギリギリの10位で箱根への切符を手にし

た。

出場権は得たものの不本意なタイムに高尾信昭監督は「完全な走りではなかった」と納得のいかない表情。これからの2カ月間はアップダウンの練習を中心にさらに走り込み、仕上げていく。福島啓介主将(法4・玉野光南高)は「絶対にシード権を取るという意気込みで臨む」と強気の姿勢で部員を引っ張る。「完全な走り」と前回のリベンジにオール専修人は熱い期待を寄せている。

(染谷 智子・文1)

[11月15日/ニュース専修16面]

女子が準優勝 バスケット 加藤 得点王、敢闘賞 / 長南 リバウンド王、優秀選手賞



月 / 撮影・浦山尚士)

第52回関東女子学生バスケットボールリーグ戦(9月7日～10月13日)が代々木第2体育館ほかで行われ、専大は3年連続準優勝を遂げた。

首位争いの日体大戦初戦では、前半を同点で折り返すと、後半、加藤五月(経営4・市立沼津高)が次々とシュートを決め、88-78で勝利し、初優勝に望みをつなげた。しかし、最終日、日体大の気合の入った攻撃に苦しめられ、72-86で敗れた。その結果、惜しくも12勝2敗の1勝差で優勝にあと一歩届かなかった。

個人賞では、得点王敢闘賞に加藤、リバウンド王・優秀選手賞に長南真由美(経営2・山形市立商高)が選ばれた。

また、長南は中国で開かれた第1回ヤングウーマンアジア選手権(10月28日～11月3日)に日本代表として出場し、チームの4位入賞に貢献した。(写真・得点王及び敢闘賞に輝いた加藤五

(染谷 智子・文1)
〔11月15日/ニュース専修16面〕

野球一部残留ならず（入れ替え戦 駒澤に連敗）



東都大学野球秋季リーグ戦は全日程を終了し、専大は3勝9敗2分け、勝ち点1で奮闘むなしく最下位に終わった。2部1位の駒大を迎えて行われた入れ替え戦（11月9、10日）も連敗し、1部残留はならなかった。

【日大4回戦】1-1で迎えた延長10回裏、阿部善隆（商4・専大北上高）のサヨナラ本塁打で勝利し、勝ち点1を得た。

【青学大1回戦】投打がかみ合わず、2-11で惨敗。

【青学大2回戦】3回裏に阿部が本塁打を放つも、3-10で負けた。

【駒大1回戦】最終回到2点を返し、意地を

見せるも、2-5で敗れた。

【駒大2回戦】小西正徳（経営4・北嵯峨高）が安定したピッチングを見せたが、9回表に1点を奪われ、1-2で惜敗。

堀田一彦監督は「リーグ終盤は主力選手のケガによる欠場に苦しんだが、みんな頑張ってくれた」と振り返り、佐竹道隆主将（経営4・浜松工高）は「力不足で1部に残留出来ず悔しい。後輩達はこの悔しさをバネにしてほしい」と語った。

（記事・写真共、高橋奈津子・文2）
〔11月15日/ニュース専修16面〕